

## 令和 4 年度第 2 次燕市食育推進計画の評価

健康づくり課

## 第2次燕市食育推進計画指標項目一覧

計画期間：平成29年度～令和4年度

進捗基準：◎目標値を達成 ○概ね達成(80%以上) △未達成だが基準値より改善 ▼基準値未満

【目標達成率(%) = (R4年度調査時実績値 - 基準値) ÷ (R4年度目標値 - 基準値)】

\*がついている指標項目は次期計画策定時(R4年度)に調査

### 基本目標

指標項目	対象	第1次計画 策定時基準値	第2次計画 策定時基準値	R元年度 調査時 実績値	R2年度 調査時 実績値	R3年度 調査時 実績値	R4年度 調査時 実績値	R4年度 目標値	評価
------	----	-----------------	-----------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------	----

#### 1 健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する

毎食、主食・主菜・副菜を そろえて食事をしている人 の増加*	小中学生	—	37.9% (H27)	—	—	—	—	60%以上	—
	保護者	—	27.2% (H27)	—	—	—	—	60%以上	—
ご飯を1日2食以上食べる人 の増加*	小中学生	98.3% (H22)	96.8% (H27)	—	—	—	97.4%	100%	△
	保護者	97.0% (H22)	93.5% (H27)	—	—	—	96.6%	100%	△
野菜を毎食食べる人の増加 *	小中学生	38.6% (H22)	38.6% (H27)	—	—	—	55.4%	60%以上	△
	保護者	29.1% (H22)	31.2% (H27)	—	—	—	48.4%	60%以上	△
朝食を毎日食べる人の増加 *	小中学生	88.9% (H22)	89.6% (H27)	—	—	—	90.2%	100%	△
	保護者	92.7% (H22)	87.6% (H27)	—	—	—	91.9%	100%	△
よく噛んで味わって食べて いる人の増加*	小中学生	—	79.7% (H27)	—	—	—	89.0%	90%以上	○
	保護者	—	67.7% (H27)	—	—	—	78.4%	80%以上	○
減塩に心がけている人の増 加*	保護者	—	52.7% (H27)	—	—	—	—	70%以上	—
	成人	—	45.8% (H28)	—	—	—	46.1% (R3)	70%以上	△
メタボリックシンドローム該当者、 予備群者割合の減少	—	—	30.6% (H27)	30.8% (H30)	31.5% (H31)	31.5% (R2)	31.4% (R3)	26.0%以下	▼
就寝前の2時間以内に夕食をとるこ とが週3回以上ある人の減少	—	—	14.1% (H27)	14.7% (H30)	14.6% (H31)	18.0% (R2)	15.2% (R3)	13.0%以下	▼
朝食を抜くことが週3回以上ある人の 減少	—	—	5.4% (H27)	6.3% (H30)	6.5% (H31)	6.4% (R2)	6.8% (R3)	5.2%以下	▼

#### 2 食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む

家族そろって食事をする人 の増加*	小中学生	59.3% (H22)	74.6% (H27)	—	—	—	80.5%	80%以上	◎
	保護者	75.6% (H22)	77.1% (H27)	—	—	—	80.3%	80%以上	◎
食事がおいしい・楽しいと 感じる人の増加*	小中学生	67.9% (H22)	74.2% (H27)	—	—	—	80.5%	80%以上	◎
	保護者	68.8% (H22)	70.2% (H27)	—	—	—	71.1%	80%以上	△
「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人の 増加* 【毎回・時々含む】	小中学生	92.5% (H22)	90.4% (H27)	—	—	—	94.6%	100%	△
	保護者	88.7% (H22)	87.3% (H27)	—	—	—	88.2%	100%	△

基本目標

指標項目	対象	第1次計画 策定時値	第2次計画 策定時基準値	R元年度 調査時 実績値	R2年度 調査時 実績値	R3年度 調査時 実績値	R4年度 調査時 実績値	R4年度 目標値	評価
------	----	---------------	-----------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------	----

3 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する

燕市の郷土料理を知っている人の増加* 【1つ以上知っている】	小中学生	94.3% (H22)	95.3% (H27)	—	—	—	98.1%	100%	△
	保護者	98.1% (H22)	97.5% (H27)	—	—	—	99.8%	100%	○
食事を作る手伝いをする子どもの増加*	小中学生	37.0% (H22)	26.2% (H27)	—	—	—	55.4%	50%以上	◎
農作物を育てたり収穫する体験のある子どもの増加*	小中学生	64.2% (H22)	63.7% (H27)	—	—	—	65.0%	70%以上	△
燕市の農作物で特産品を知っている子どもの増加* 【1つ以上知っている】	小中学生	80.7% (H22)	96.3% (H27)	—	—	—	97.9%	100%	△

4 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する

食の安全性に関心を持つ人の増加*	保護者	57.4% (H22)	64.4% (H27)	—	—	—	97.6%	80%以上	◎
食品の表示を確認して購入する人の増加*	保護者	99.3% (H22)	98.3% (H27)	—	—	—	99.2%	100%	△
燕市産・新潟県産を意識して食品を購入する人の増加*	保護者	70.7% (H22)	72.8% (H27)	—	—	—	58.5%	80%以上	▼

## 燕市食育推進計画 活動指標各課実施状況（令和2～4年度）

No.	活動指標名	単位	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度評価 ／担当課
1	つばめ食育だより掲示施設数	施設	207	211	215	A／健康づくり課
2	つばめ食探求事業参加人数	人	-	195	357	A／健康づくり課
3	食育月間食育啓発普及人数	人	4,800	4,800	4,800	A／健康づくり課
4	食生活改善推進委員活動回数	回	1,320	1,320	2,080	A／健康づくり課
5	3歳児の野菜を毎食食べる割合	%	53.6	47.7	41.7	B／健康づくり課
6	3歳児むし歯有病者率	%	7.2	6.5	4.9	A／健康づくり課
7	生活習慣病予防相談会参加者数	人	90	91	90	B／健康づくり課
8	フレイル予防に関する情報発信回数	回	15	6	14	A／健康づくり課
9	幼保こども園給食喫食量	%	98.9	98.5	98.5	B／子育て支援課
10	キッズ健康講座参加人数	人	17	82	72	B／子育て支援課
11	児童館等での食育活動回数	回	13	17	24	A／子育て支援課
12	食育教材使用学校食育啓発回数	回	36	22	24	B／学校教育課
13	つばめキッズファーム事業児童満足度	%	—	—	100	A／学校教育課
14	学校給食地産地消率	%	36	39	42	A／学校教育課
15	要支援者通所型健康教室参加者数	人	43	52	58	B／長寿福祉課
16	高齢者配食サービス利用者数	人	106	117	129	A／長寿福祉課
17	生ごみ処理機設置補助金額	千円	100	100	92.2	B／生活環境課
18	食品ロス削減出前講座実施状況	有無	—	—	有	A／生活環境課
19	ワークライフバランス理解度	%	95	100	95	A／地域振興課
20	地元産農産物料理教室参加人数	人	—	—	23	A／農政課
21	つばめ食べて応援キャンペーン応募数	枚	17,675	20,315	17,057	B／農政課
22	家庭教育推進事業参加者数	組	0	16	19	B／社会教育課
23	食に関するサークル数	組	14	13	13	A／社会教育課
24	背脂ラーメン提供数	食	—	—	41,602	B／観光振興課
25	アレルギー対応非常食備蓄数	食	2,160	2,880	3,600	B／防災課
26	防災出前講座実施回数	回	18	15	19	A／防災課
27	子ども食堂での食事の提供回数	回	—	—	44	A／社会福祉課
28	フードドライブ寄付重量	Kg	—	582	2,557	A／社会福祉課

# 燕市の食育「食を通して心のつながりと元気なからだを育てます」

## 基本目標1 健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を实践する



離乳食座談会



保育園でのキッズ健康講座



栄養教諭による児童への食育



高齢者配食サービス



健康教室での口腔ケア指導

## 基本目標2 食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育てる



食育活動から展開する家庭教育講座



子ども食堂



男女共同参画だより



食推による生徒への食育



こども園での栄養素確認



食育普及食推かし



フードライブ事業



食品ロス削減に関する出前講座



公民館 食に関するサークル活動

# 燕市の食育



おこわ団子講習会



けんこうづくりチャレンジ企画 ベジ足し



つばめキッズファーム事業



100年フード認定 背脂ラーメン



つばめ「食べて」応援キャンペーン



つばめ食探求事業



保育園での野菜の栽培



こどもの森での食育啓発



栽培したサツマイモを使って調理



越後つばめの天神講



つばめの給食 Instagram



食育動画 衛生編



学校給食野菜納入会議



学校給食地産地消推進

## 基本目標3 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する

## 基本目標4 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する

令和4年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

【評価の基準及び評価の表記】

事業の評価は、指標に対する達成率及び事業の実施状況で評価ポイントの取組を行った項目数により、下記基準表により、成果(効果)を得られたか、3段階で表記するものとする。

【評価基準算出表】

評価ポイントの取組を行った項目数	目標値	
	達成	未達成
3	A	B
1~2	B	B
0	C	C

A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

B :食育の視点を取り入れ事業を実施している

C :食育の視点で事業を実施できなかった

No.1

健康づくり課 健康チーム

事業名	つばめ食育だよりでの食育の情報提供						
実施時期	毎月19日	実施対象	市民、職員				
内容	毎月19日が食育の日であることのPRと食育情報・健康情報を燕市の状況と合わせて発信する。幼保子ども園、小中学校、公民館、体育館等の市内公共施設及び市内スーパー等に掲示を依頼。燕市ホームページ、公式LINE、子育てアプリで配信。計画の目標達成に向け、食育推進の各種取り組みを発信するため、各課と連携協力して食育だよりを作成する。掲示施設の拡大とホームページへのアクセス数増加のための取組を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		つばめ食育だより掲示施設数	掲示施設数	施設	目標	212	
					実績	215	
					達成率	101%	
令和3年度の実績211施設をもとに算出							
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	年間通して12個の食育ピクトグラムを使用し、多面的な食育のテーマ選定を行った。また今年度はテーマに合わせ、関連課10課全てに協力いただき各課の事業を周知できる内容を企画できた。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	掲示施設に加えて、燕市公式LINEと公式Twitterでの配信やイベント時に配布。保険会社3社を通じた市民への健康情報の発信に、つばめ食育だよりが活用されている。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	燕市の現状や課題、取組状況を掲載し、市独自の食育情報となるよう作成した。食育に関する関係各省の動向や県の取組に注視し、タイムリーな内容発信に努めた。				
成果及び今後の課題		新規オープンスーパーや調剤薬局に依頼、アクサ生命保険株式会社との協定締結により、掲示店舗の増加及び健康情報の活用拡大につながっている。内容の理解と実践、周囲への普及啓発のため食生活改善推進委員の活動時に対象者へ配付説明をした。今後もより多くの市民に伝達できるよう、発信先の拡大と効果的な誌面作成に取り組んでいく。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	つばめ食探求事業						
実施時期	通年			実施対象	市内在住、在勤者		
内容	市内農産物の収穫体験と同食材を使用したお店での食事を組み合わせた企画を季節ごとに年4回開催。食育への関心が希薄な働き世代へアプローチするため燕西蒲勤労者福祉サービスセンターと協働で企画し、タンポポニュースに掲載して周知を行う。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		つばめ食探求 事業参加人数	合計参加人数	人	目標	200	・年4回各50名の参加を目標として算出 ・R3年度参加者195名
					実績	357	
					達成率	179%	
評価のポイント		実施内容を具体的に記入					
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地元産農産物への理解や地産地消の推進、食の体験活動充実を目的に、市内の農家を訪れる収穫体験を企画した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	働き世代の参加増につなげるため、休日にかつ数日間設定した。また同農産物を使用した飲食店での食事を組み合わせたことも魅力につながったと考えられる。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	現地で農家の方に野菜の品種や特徴、収穫方法やおすすめの食べ方を説明していただき、より農産物への関心や愛着がわいている。				
成果及び今後の課題		四季に応じて、きゅうり・トマト・さつまいも収穫を実施し3回の企画ですでに275名の参加実績があった。年度内は3月にも収穫体験を予定している。ターゲットにした働き世代や親子に多く参加いただき、人気の企画となっている。受け入れ人数や実施の条件に賛同し新たに協力いただける農家が増え、参加実績増となった。今後は新たな野菜での企画実施を検討していきたい。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	食育月間における食育啓発事業						
実施時期	6月			実施対象	市内在住、在勤者		
内容	関係課から協力をいただき、公共施設や農産物直売所等で食育啓発ティッシュを配布する。働き世代に向けた熱中症予防のためのリーフレットを作成し、食生活改善推進委員により配布する。こどもの森で食育イベントを6月18,19日に実施する他、月間を通して食育工作の実施等食育普及に取り組む。図書館では食育の本コーナーを設置する。食育月間の取組みについて、ホームページ・公式LINE等で発信する。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		食育啓発普及 人数	食育啓発ティッシュ 配布個数	個	目標	4,800	昨年度実績より算出
					実績	4,800	
					達成率	100%	
評価のポイント		実施内容を具体的に記入					
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食育推進について重点的かつ効果的に一層の浸透を図るため、6月の食育月間でのイベントや事業実施を関係機関に打診した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	野菜摂取を勧める食育啓発ティッシュを作成し、各課関連施設での配布を行うことで多方面から幅広い食育周知につながった。また、新たに食生活改善推進委員による働き世代への熱中症予防啓発を実施した。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	こどもの森では、朝ごはんクイズ、お買い物ごっこ、道具選び、3色栄養バランス、栽培体験、工作など親子で楽しめる体験型の食育イベントを開催した。				
成果及び今後の課題		こどもの森に協力いただき、イベント開催日には2日間合計 271名の参加があった他、食育月間期間中は食育工作等重点的に食育啓発を実施した。食生活改善推進委員による働き世代への熱中症予防啓発は28事業所709名に対し実施できた。今後も関係機関と協力し、食育月間での普及を広めていく。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名		食生活改善推進委員の活動支援と養成					
実施時期		通年	実施対象		燕市食生活改善推進委員		
内容		健康な食生活の習慣化と食文化伝承に向け、地域住民に密着した健康づくり活動を推進する委員への活動支援と養成。食育指導媒体を作成し、園児や児童、地域に向けた活動が多く展開されている。燕市の健康課題解決、他課からの依頼事業に合わせ、関係組織や団体と連携協力を図り活動を実施する。感染リスクを伴わない活動方法を考える。					
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		食生活改善推進委員協議会活動数	食生活改善推進委員の個別による活動総回数	回	目標	2,080	食生活改善推進委員1名につき20回実施(会員104名)
					実績	2,080	
					達成率	100%	
評価のポイント		実施内容を具体的に記入					
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	燕市の健康課題である肥満や糖尿病等生活習慣病予防のため、野菜不足を補う「ベジ足し」パンフレット第3弾を作成し各世代への配布を計画した。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	野菜不足等課題の多い若い年代に抵抗なく取り組んでもらえるように簡単な野菜料理を集めた。働き世代への啓発は企業へ訪問し普及活動を行った。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	活動は調理実習や試食は避け、パンフレットや食育ティッシュを活用して普及したり、減塩商品やよく噛める市販品をイベント時に配布し関心を高める工夫をした。				
成果及び今後の課題		ベジ足しパンフレットを12,000部作成し、個々に地域住民に対して啓発したり、高齢者サロンや学校等に出向いて普及する活動を展開した。新たな取組として、中学生に対し食べることの大切さを伝える講話の実施や、夏休み期間に合わせ小中学生に食育推進ポスターの募集をした。引き続き新たな視点での活動方法を考えていく。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

事業名		母子保健事業【ハッピーベビークラブ、乳幼児健診、予約制育児相談会、小児肥満度調査】					
実施時期		通年	実施対象		妊婦、乳幼児とその保護者		
内容		正しい食の知識や生活習慣、食事を楽しむこと等についての個別指導。 年齢に合わせた食事量やポイントを掲載した食事リーフレットの作成、幼児健診での配布。 乳幼児健診身体計測値より肥満度の算出、個別指導。 広報や食育だより、ホームページでの食育情報発信。					
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		3歳児野菜を毎食食べる割合	3歳児健診アンケート野菜を毎食食べる人数/3歳児健診受診者	%	目標	50%以上	野菜を毎食食べる人数/3歳児健診受診者 R1年度 271/575(52.7%) R2年度 274/530(51.7%) R3年度 233/508(45.9%)
					実績	41.7%	
					達成率	83.4%	
評価のポイント		実施内容を具体的に記入					
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	ハッピーベビークラブで妊婦に対して栄養指導、乳幼児健診で食事リーフレットの配布、健診時肥満度を算出後に肥満とやせに該当した子の保護者に対する栄養指導等、通年母子保健事業で食育を推進するよう企画できた。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	年齢に合わせた食事量やポイントを掲載した食事リーフレットを作成し、幼児健診で配布。食事量については1日あたりの量のグラム数の記載に加え、写真も記載したことで対象者がイメージしやすいリーフレットとした。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	栄養相談を希望した親子だけに声をかけるだけではなく、栄養相談の希望はしていないけど「野菜を全く食べない」に該当している親子に声をかけ、食事リーフレットを見せながら個別指導を実施した。				
成果及び今後の課題		一昨年、昨年に引き続き割合の数値が低下してしまった。幼児健診時は引き続き、栄養指導を希望していない親子でも「野菜を全く食べない」に該当している場合は栄養指導をに入るよう取り組む。また1歳歯科健診と2歳歯科健診時にも食事のリーフレット(特に野菜について記載したものを)を配布することで、より多くの情報を発信できるのではないかと考え、今後検討する。					
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している					



事業名		歯科健診などでの生涯各期に応じた食育の推進							
実施時期		通年			実施対象		市民		
内容		①妊婦:妊婦歯科健診 ②子ども:幼児健診・幼児歯科健診でのフッ化物歯面塗布、全園や小学校でのフッ化物洗口、虫歯予防教室 ③成人・高齢者:歯周疾患健診(40,50,60,70歳)、長寿歯科健診(76,80歳)、訪問歯科診療、保推・食推活動、笑顔の宅配プロジェクト ④歯っぴーフェア(歯科医師会主催) ⑤かがやきポイント事業:ポイント手帳項目(毎食後歯みがき) ⑥食育だより(10月号)							
事業の検証		活動指標		指標名	指標の算出方法	単位	R4年	目標値の根拠	
				3歳児むし歯有病者率	3歳児むし歯有病者/3歳児健診受診者	%	目標	10%以下	燕市歯科保健計画評価指標
							実績	4.9%	
			達成率	204.1%					
事業の実施状況		評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
		1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	幼児健診時のフッ化物歯面塗布や全園・小学校でのフッ化物洗口だけではなく、歯っぴーフェアやつばめ食育だより10月号等で幅広い年代をターゲットとし、燕市民全年代でお口の健康に対する意識を高めていけるよう企画できた。					
		2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	歯っぴーフェアについては燕市公式LINE、燕市ホームページ、広報つばめ等で周知し、無料で受けられるフッ化物歯面塗布の予約についても記載。幅広い年代の目に止まる方法で周知した。また、笑顔の宅配プロジェクトは対象者の家に伺い、歯科衛生士から指導する形となっており高齢者でも利用しやすくなっている。					
		3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	1年を通して歯科健診等で食育の推進ができるよう、幼児歯科健診では希望者に栄養指導、歯っぴーフェアでは食生活改善推進委員のブースを設け、食の面からお口の健康を推進するなど、生涯各期に対する食育の推進に努めてきた。					
成果及び今後の課題		健診等で継続的なフッ化物歯面塗布ができてきていることから、3歳児むし歯有病者率が低い数値を維持することができている。今後も今までと同様取り組んでいき、よく噛むことの重要性やよく噛むための食事について等、保護者への働きかけを積極的に行い、歯科保健から食育推進に取り組んでいく。							
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている							

事業名		成人保健及び健康づくり事業における食育推進 (特定保健指導・糖尿病予防・骨粗鬆症予防・メタボ予防・職域健診指導・元元磨きたいプロジェクト活動)							
実施時期		通年			実施対象		一般市民		
内容		各種成人保健事業について、個別対応による相談会を開催する。特定健診や職域健診会場など市民へ発信可能な場所で、減塩・肥満予防・糖尿病予防の食事について、媒体やパンフレットを用いて普及啓発を実施。							
事業の検証		活動指標		指標名	指標の算出方法	単位	R4年	目標値の根拠	
				生活習慣病予防に関する相談会への参加者	参加人数	人	目標	95	昨年実績に基づき算出(R3:食事相談会31人、健診結果個別相談会60人)
							実績	90	
			達成率	95%					
事業の実施状況		評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
		1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	多様な情報が氾濫する現代社会において、食に関する正しい知識と選択する力を身に付けることができるよう使用する資料についても検討し行った。					
		2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	年間計画で決定している相談日を別日に設けるなど、食に関する不安や悩みを話し、相談できる場を作ることができた。					
		3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	各個人の食習慣や環境に配慮した食事内容について提案することができた。					
成果及び今後の課題		相談会から数か月経過した参加者へ電話連絡し、生活習慣や食事の現状について聞き取り、継続的に支援することができた。今後も、生活習慣や食事内容を改善し、無理なく継続ができ、効果が上がるように指導していき、相談者との信頼関係を築いていく。							
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している							

事業名	介護予防関連事業における食育推進						
実施時期	通年			実施対象	高齢者		
内容	高齢者に向けて参加者の年代と身体状況を加味し、食に対する興味関心を高め、普段の食生活を振り返りつつ、しっかりと3食バランス良く食べることや、カルシウム・たんぱく質等摂取のすすめを中心に低栄養状態(フレイル)を予防する情報発信を行う。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		フレイル予防に関する情報発信回数	健康教育やメディアを通じた発信等の回数	回	目標	10	過去の実績に基づき算出 (R2:15件、R3:6件)
					実績	14	
					達成率	140%	
評価のポイント		実施内容を具体的に記入					
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	参加者の年代やニーズにあった内容や手法で検討した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすき形態を考慮したか	参加者の年代や人数に考慮して、クイズや食育媒体などを組み合わせ、興味や関心をもってもらえるような内容を心がけた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	高齢期の健康課題であるフレイル予防を中心に、低栄養予防や骨粗しょう症予防に関しての啓発も行った。				
成果及び今後の課題		参加者が理解しやすいようにクイズや媒体を使用し、啓発を行った。今年度は、地域との関わりがある食生活改善推進委員の活動で健康相談会や地域のサロンへ伺い、フレイル予防について普及啓発を行った。今後も、参加者が理解しやすい媒体作成と健康教育を実施していく。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	幼稚園・保育園・こども園における給食の提供						
実施時期	通年			実施対象	園児		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食の提供を通して、園児へ食事のマナーや食物の知識について食育を実施。</li> <li>食物アレルギー疾患をもつ園児に「食物アレルギー対応食」を提供する。</li> <li>給食だより、給食展示、給食の試食、レシピの提供により給食内容を保護者へ周知する。</li> <li>行事食や伝統食を取り入れて食文化を継承していく。</li> <li>地産地消の推進(吉田地区:地元の生産者から農産物を納品 ジャガイモ、玉ねぎ、大根、南瓜、長ねぎなど)</li> </ul>						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		喫食量	出席者の摂取量/在籍者の発注量	%	目標	99	令和3年度実績98.5%に基づく
					実績	98.5	
					達成率	99.5%	
評価のポイント		実施内容を具体的に記入					
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	旬の食材を使用し、季節に合わせた献立を作成した。また、行事食や郷土食(のっぺや菊のおひたしなど)を献立に取り入れ、食文化の継承を目指した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすき形態を考慮したか	給食の展示や保護者へのレシピ提供を行っている。また、給食だよりを通して食に関する情報提供を行った。今年度からは、燕市子育てアプリ「はぐはぐ」への食育掲載を通して、保護者に園の情報提供ができた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	園の給食を通して、食事のマナーを学び、食べ物への興味や知識を高め、人と一緒に食べる喜びを実感できるよう取り組んだ。				
成果及び今後の課題		喫食量は例年ほぼ変化なく維持されている。新しいレシピやアレルギーに対応したレシピを導入し、さまざまな食材を取り入れたい。					
担当課による評価結果			B :食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	キッズ健康講座						
実施時期	年3回	実施対象	園児・職員				
内容	テーマは「噛むことの大切さ」。園児、職員を対象によく噛むことの効果について食育講座を行う。新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら実施する。 季節の食材を使ったクイズ等で食べ物に興味や関心をもち、食への感謝の気持ちをもつことができるような講座を行う。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		食育講座の参加人数	実施した講座の参加人数	人	目標	90	食育講座実施園の園児、職員の参加見込み人数
					実績	72	
					達成率	80%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	よく噛む習慣を幼児期から身につけられるよう、よく噛むことの重要性について普及した。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保育参観時の講座は見合わせ、園児、職員のための講座を行った。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	園児が食に興味・関心をもてるよう、ごぼう・れんこんなどの身近な旬の食材を使ってよく噛むことができる野菜クイズを行った。					
成果及び今後の課題	講座時の園児の反応はとともよく、質問も多かった。内容についても理解しているようであった。今後も新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、継続していきたい。						
担当課による評価結果			B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	児童館・児童クラブでの食育活動						
実施時期	通年	実施対象	0～18歳までの子ども・保護者				
内容	食物に関する知識を高めるとともに、食物をつくる楽しさやおいしさを体験することで食への興味や関心をもつことができるよう食育活動を実施し、幼児期・児童期からの食べ物の大切さや食への感謝の気持ちを育むことができるよう支援する。児童館・児童クラブでは、旬の野菜の苗植え体験や育てた野菜の収穫体験を行ったり、食育クイズやゲームなどにより食に対する興味・関心を深める。新型コロナウイルス感染防止の対策を行ったうえで、食育講座を開催する。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		食育講座の実績回数	各施設での実施回数の合計	回	目標	20	令和3年度実績に基づく
					実績	24	
					達成率	120%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	野菜や果物の苗植え・栽培・収穫、食育クイズや食育かるたなど、食に興味を持ってもらえるような講座を企画した。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	児童館等で実施することで、子どもと保護者が参加しやすい環境であった。また、人数制限、参加者同士の距離をとる、消毒の徹底などの感染症対策を行いながら開催することができた。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食育クイズの講座や野菜の栽培体験を通して、食に興味をもってもらうことができた。					
成果及び今後の課題	野菜の栽培や収穫体験は、あまり経験できない家庭もあると思われるため、食に関する興味をもってもらうよいきっかけとなった。また、今年度は消毒や黙食などの感染症対策を行いながら食べる活動もできた。今後も感染症対策を行いながら、様々な活動を継続して行っていく。						
担当課による評価結果			A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	学校給食の提供及び児童生徒への食育						
実施時期	通年			実施対象	市内小中学校の児童生徒及びその保護者等		
内容	①「給食&食育だより」の発行、ホームページへの掲載 ②「食の指導プラン燕」の策定、食育教材の周知と貸し出し ③毎月1回「減塩愛ディア献立」を実施し、給食だよりや放送を通じて児童生徒及び家庭に減塩について啓発 ④インスタグラムで学校給食の写真を毎日配信						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		教育委員会が貸し出す食育教材を借用し、学校が主体的に食育に取り組んだ件数	食育教材の借用件数	件	目標	36件	令和2年度実績36件(令和3年度の実績は22件であったため、令和2年度の実績を目指す)
					実績	24件	
					達成率	66.7%	
事業の 実施 状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	「食の指導プラン燕」を作成し、各学校へ周知することで食育指導の計画立案に繋がった。また、「給食&食育だより」や給食時の放送、食育動画を通じて食育の啓発を行った。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	学年に応じた食育教材の貸し出しや、保護者にも給食の内容が伝わるよう「給食&食育だより」の配布に加え、今年度から「インスタグラム」での配信を毎日行った。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	「減塩愛ディア献立」では、減塩のコツを活かした献立を提供し、減塩のポイントを給食時の放送等で伝えることで児童生徒が普段から減塩を意識できるように努めた。				
成果及び今後の課題		令和3年度の実績は22件であり、今年度はこれを上回ることができたが、目標値には届かなかった。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス対策により、給食時の黙食が徹底されていることも借用件数が伸びなかった理由として考えられるが、食育教材を見直し、より使用しやすい食育教材を提供することで食育活動の機会を増やしていきたい。また、今年度から実施したインスタグラムで学校給食の写真を配信する取組は保護者からも好評であり、継続していきたい。					
担当課による評価結果			B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	つばめキッズファーム事業						
実施時期	4月～12月			実施対象	市内小学校の児童		
内容	市内の小学校15校を対象に子どもたちが学校田や学級園での収穫を体験する。 (1)収穫の喜びや食への興味関心、感謝の気持ちを持てるようになる。 (2)農業や食の環境を学ぶとともに、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、自分の将来設計に役立てる。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		実施校の数	実施した学校の合計	校	目標	15校	令和3年度実績15校
					実績	15校	
					達成率	100%	
事業の 実施 状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	自分たちの手で農作物を作る体験活動を通じて、食や農業への興味、関心を持つような計画を各学校で立案した。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	学年に合わせた栽培や収穫の体験活動を実施し、理解を深められるよう努めた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	収穫した野菜等を使った調理体験を行うことで、収穫したものを食べる喜びや食の大切さを学ぶことができた。				
成果及び今後の課題		市内の全小学校でつばめキッズファーム事業が実施され、達成率は100%であった。参加した児童からは、「農家さんの大変さが分かった」、「苦手な野菜も、自分で育てたらおいしく食べられた」、「お米の大切さが分かり、一粒一粒大切にしたいと思った」などの感想が上がった。また、コロナ禍以前に実施していた農家さんと交流する時間を徐々に増やしていきたい。					
担当課による評価結果			A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	学校給食における地産地消の推進						
実施時期	通年			実施対象	市内小中学校の児童生徒		
内容	①学校給食において、燕市産野菜の使用を推進 (1)毎月生産者に野菜の使用予定一覧を送り、野菜の納入を働きかける。 (2)給食時間の放送で、生産者名や地区を伝え、食への感謝の念を醸成 ②越後中央農業協同組合から給食用精米を購入 ③西部学校給食センターにおいて、地元企業が製造した給食用物品を展示						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		野菜の地産地消率	燕市産を含む県内産野菜の使用割合	%	目標	39%	令和3年度実績39%
					実績	42%	
					達成率	107.7%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	野菜納入会議等で納入可能な青果物について生産者と話し合い、献立作成にいかした。また、今年度は、学校給食への理解を深め、地場産野菜の納入により一層意欲を高めてもらえるよう生産者の給食試食会を実施した。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	児童生徒だけではなく、保護者にも「給食&食育だより」を通じて、地産地消や燕市産農作物などの情報発信を行った。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	地元生産者から納品された青果物を使用した場合、各学校へ、生産者の名前と野菜名を事前に連絡し、給食時の放送や動画等を通じて情報提供した。					
成果及び今後の課題		地元生産者との連携を密にすることにより、燕市産野菜を多く給食に取り入れることができた。また、児童生徒に地産地消への興味関心を高めてもらえるよう、野菜の収穫作業や燕市産野菜についての動画等を作成し、給食時に放送を行った。今後も、積極的な情報発信に努めていきたい。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	通所型サービスC「健康教室」						
実施時期	通年。利用回数：18回コース 市内の事業所(5か所)にて実施			実施対象	要支援1・2、総合事業対象者		
内容	●運動指導：理学療法士等による運動(下肢筋力アップのための筋トレなど) ●口腔ケア：口腔清掃指導、唾液腺マッサージ指導 ●栄養指導：「低栄養の予防・バランス食のすすめ」についての講話						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		健康教室参加者数	年間の参加者数	人	目標	65	昨年度の実績に基づき算出 (R3:52人) ※実績：11月末現在
					実績	58	
					達成率	89.2%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	心身の機能維持・向上を目指し、基本チェックリスト該当者や長寿歯科健診受診者(口腔機能低下の人)などを対象に、口腔機能向上プログラムや栄養指導を取り入れている。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	後期高齢者健診で転倒リスクの高い人のうち、介護認定のない人や事業対象者でない人に対して基本チェックリストを実施し、該当した人に参加勧奨した。希望したタイミングで参加できるように、通年で受け入れられる体制にしている。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	口腔機能向上と低栄養の予防を組み合わせた指導を行っている。					
成果及び今後の課題		対象者が希望したタイミングで受け入れ可能なため、利便性の向上につながっている。しかし、事業の存在を知らない人が多いため、今後は広報活動にも力を入れていく必要がある。					
担当課による評価結果			B :食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	高齢者福祉サービス・配食サービス事業						
実施時期	通年 提供日数:週2日以内(1日1食)	実施対象			以下のすべてに該当する人 ●70歳以上の人 ●ひとり暮らし、または世帯全員が高齢者の人 ●世帯の全員が次のいずれかに該当 ①要介護または要支援の人 ②身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳のうちいずれかの交付を受けている人		
内容	ひとり暮らしの高齢者などのうち、安否確認が必要で自ら食事を用意することが困難な人に対して、1食300円で食事を提供する。 ※事業の対象に該当しない人についても、民間の配食サービス事業所を紹介している。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		配食サービス利用者数	配食サービスを利用する人の実人数	人	目標	110	過去の実績に基づき算出 (R2:106人、R3:117人) ※13月分の実人数 (R4:126人) ※11月分の実人数
					実績	129	
達成率	117.3%						
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	基本的な栄養バランスが取れるよう主食・主菜・副菜を入れた食事を提供してもらっている。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	事業の対象にならない方には民間の配食サービス事業所を紹介することで利便性を図っている。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	配食サービスを利用することで、バランスの良い食を確保し、低栄養予防につながっていると考える。				
成果及び今後の課題		食の確保や栄養バランスの取れた献立を考えることが難しい人でも、安否確認を兼ねて安全・安心な食を確保することができる。また、定期的に配食があることで安定した食習慣を身に付けることができる。今後もサービスを必要とする人が利用しやすい事業の実施に努める。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

事業名	生ごみ処理機(機)設置補助金						
実施時期	通年	実施対象			市内に住所を有する者		
内容	市内の各世帯から排出される生ごみの減量化、焼却の効率化及び堆肥としての資源化を図ることを目的として、生ごみ処理機の普及促進を図る。そのため、市内に住所を有する者で、生ごみ処理機を販売する市内に本社または営業所を有する業者から、生ごみ処理機を購入し設置する者に対して補助を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		生ごみ処理機設置補助金額	交付実績	千円	目標	93	予算額の100% (R3年度執行率100%であるため)
					実績	92.2	
達成率	99%						
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食の循環や環境を意識した食育の推進を推奨するため、生ごみ処理機は、生ごみの減量化、焼却の効率化及び堆肥としての資源化を目的としている旨を広報やHPで周知した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	補助金の周知を図るため、4月に広報で案内を出したほか、HPに内容を掲載し情報提供を行っている。申請者の手間を少なくするため、申請書や実績報告書をHPからダウンロードできるようにしている。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	補助金を交付することによって、処理機の導入を加速させることができた。処理機を設置・利用することは、生ごみの減量化、焼却の効率化及び堆肥としての資源化へとつながる。これらは食の循環や環境への意識啓発となった。				
成果及び今後の課題		令和3年度当初予算が4月時点で底をついてしまったため、令和4年度当初予算要求増額をした。今後も市民へ導入するメリットなどを示した周知を図るほか、市民の導入意向を伺いつつ、需要にあった補助金交付を行っていきたい。					
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している					

事業名	食品ロス削減計画の普及						
実施時期	通年			実施対象			
内容	令和4年3月に策定した「燕市食品ロス削減推進計画」の普及を図るため、様々な世代に向けての出前講座等を行っていく。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		食品ロス削減計画の普及	出前講座等の実施状況	%	目標	出前講座等実施の有無	
					実績	実施有	
					達成率	100%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食品ロス削減に関する内容の出前講座を行った。食品ロス削減は食育に深く関係がある内容である。					
2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	誰もがイメージしやすいように、普段の生活で実践できる食品ロス削減についての内容で講座を行った。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食品ロス削減には、食べ残しを減らすこと等の食育に関する内容が深くかかわっているため、食育の視点は多く取り入れた。					
成果及び今後の課題		今年度は出前講座は3回であったが、今後は回数を増やしていきたい。また、今年度は主に高齢者に対しての講座が多かった。したがって、今後は、より若い世代に対しても出前講座を行いたい。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	市民と事業者へワーク・ライフ・バランスの情報提供と啓発						
実施時期	6月・11月			実施対象		市民、市内在勤者、市内事業者	
内容	ワーク・ライフ・バランスを呼びかけ、家庭で食事をする時間を十分確保してもらうことで、食を通じた家族のコミュニケーションの促進を図る。 ①年3回発行予定の「燕市男女共同参画だより～サルビアレター～」で、6月号のテーマの一つとしてワーク・ライフ・バランスと食育の関連性を取り上げ、意識啓発を図る。燕市ホームページへ掲載するほか、公式LINE等で配信を行う。 ②11月に事業者・住民を対象に「女性活躍・ダイバーシティ推進フォーラム2022」を開催予定。ワーク・ライフ・バランスの実現をテーマの一つとして講演会等を行う。仕事と家庭生活の両立の重要性を啓発する。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		ワーク・ライフ・バランスについての理解度	フォーラム参加者アンケート結果	%	目標	90	昨年度の実績を考慮し、フォーラム参加者の90%がワーク・ライフ・バランスについて理解を深めるものとして算出
					実績	95	
					達成率	106%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	6月の食育月間に合わせて、男女共同参画だよりのテーマに食育の視点を取り入れることを企画した。					
2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	「女性活躍・ダイバーシティ推進フォーラム2022」は、対面形式とオンライン形式の併用で開催し、後日録画配信も行うことで、参加しやすい形態とした。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	家庭内での家事分担と食育の関連性をテーマに取り上げた男女共同参画だよりを作成し、意識啓発に努めた。					
成果及び今後の課題		男女共同参画だよりの発行や女性活躍・ダイバーシティ推進フォーラムの開催を通じて、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画推進の視点から、家庭における食育についての周知を行うことができた。今後も引き続きワーク・ライフ・バランスの重要性を多くの人に向けて啓発することで、食を通じたコミュニケーションの促進に繋げていく。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	農業復興事業						
実施時期	通年			実施対象	燕市民		
内容	燕市産農産物のPRのため、燕市農村地域生活アドバイザー連絡会の協力のもと地元産の旬の農産物をピックアップし、料理教室を年3回開催予定。第1回は、旬の枝豆を使用したずんだの米粉団子。農産物の地産地消を推奨するとともに、米粉を使用することで、現代の「米離れ」解消を促す目的もある。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		料理教室の参加人数	当日参加した人数	人	目標	12	募集人数
					実績	23	
					達成率	192	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	小麦粉や団子粉を使用するメニューを、米粉を使用することで現代の米離れを解消できるような体験内容を企画した。また、参加者とアドバイザーが1対1になるようにすることでコミュニケーションを取りやすくするなどより良い環境づくりに努めた。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	どこでも材料調達・誰でも調理できるような簡単なメニュー3つを提供することで、幅広い年代の方が参加できるようにした。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	第1回ずんだ団子教室では、夏休み中の学生も参加できるよう8月上旬に設定した。第2回おこわ団子教室では、定員8名のところ29名の参加申込があった。新潟県の伝統料理であるおこわ団子を2人1組になって調理した。慣れない料理を参加者で協力して調理することで、より達成感を得られるようにした。				
成果及び今後の課題		今回は料理教室を開催することで直接アドバイザーからの技術を伝承することができ、参加者からも「いい経験になった」「晩強になった」などありがたいお言葉をいただいた。来年度以降は調理後にアンケートを実施することで消費者ニーズに合わせた料理教室を開催することを目標としたい。 また、動画媒体でもずんだ団子のレシピを公開し、より多くの人に周知を図ることができた。					
担当課による評価結果			A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	つばめ“食べて”応援キャンペーン						
実施時期	8月1日～10月31日(3カ月間)			実施対象	燕市民、近隣住民、観光客、通販購入客		
内容	燕市産の農産物に応募シールを貼り、購入した消費者がシールを集めて応募すると抽選で燕市産の農産物や農産加工品が当たるキャンペーン。燕市産農産物のPRや販売促進が主な目的だが、産地が分かり食の安全・安心につながることや、地産地消の推進も目的としている。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		キャンペーンの応募数	応募はがきの枚数	枚	目標	21,000	昨年度の応募枚数
					実績	17057	
					達成率	81.2%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	賞品に「飛燕舞」や燕市産の酒米を原料とした日本酒などを採用して地産地消を推進した。またWチャンスの賞品に「道の駅国上のお買物券」を取り入れ、地場農産物販売がメインである売場にてさらなる消費喚起を促した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	市内全域で参加できるよう新店や未参加店舗を訪問し参加促進した結果、昨年度よりも多くの農業者・店舗が参加してくれた(過去最多)。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	市ホームページやSNSで売場や旬の農産物のようすをこまめに発信し、地場農産物の販売促進を促した。また当選者への当選通知で農業者や売場従業員を紹介し、生産者や販売者の顔が分かり消費者への食の安全・安心につながるよう努めた。				
成果及び今後の課題		応募に必要なシールの点数を昨年度よりも上げたため、応募総数は前年割れとなった(昨年度5点・10点→今年度10点のみ)。一方で参加農業者・店舗数が過去最多となり、より広い範囲で実施することができた。今回で3回目の実施となりこの事業の認知度は上がったが、マンネリ感も否めず、今後は応募者(消費者)を飽きさせない工夫が必要である。					
担当課による評価結果			B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している				



事業名		家庭教育推進事業(食育活動から展開する家庭教育講座ららんランチ会)						
実施時期		6/8(水)、8/3(水)、10/5(水)、12/7(水)、3/8(水)	実施対象		乳幼児及び小学生とその保護者			
内容		<p>・親子一緒に料理することでコミュニケーションを図り、料理の楽しさや食への関心を高めてもらう。家庭で楽しみながら伝えられる「食」の大切さを学ぶ。</p> <p>・料理を通じ子どもたちに思いやりの心や感謝の気持ち、および自立心を育て、子どもの健やかな心と体の育成を図る。</p>						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位	R4年		目標値の根拠	
		定員数 各回:親子8組	1回で対応できる親子の数	組	目標	32		講師の人数に応じて対応できる限度数。
					実績	19		
					達成率	59%		
評価のポイント		実施内容を具体的に記入						
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	絵本と料理を親子一緒に楽しむことをコンセプトに、「食」の大切さや関心を高めるよう計画・立案を行った。					
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	参加者の生活スタイルに支障がないように考慮し、各回とも水曜日午前開催とし参加募集に努めた。					
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	旬の食材、地元の食材を用い親子で一緒に調理し、参加者全員で楽しく家庭教育講座を行った。					
成果及び今後の課題		<p>毎回、調理実習と子育てのポイントを絞り家庭教育支援ガイドブックに沿った内容での座学も取り入れられており、アンケートの満足度は高い結果がでている。</p> <p>新型コロナの影響で1回中止となり、開催しても乳幼児の親が対象なため心配や不安などで申込を見合わせ、定員に満たないこともあった。今後は参加者の増加を図り食育を通じ家庭教育の重要性を学ぶ機会の普及に努めていきたい。</p>						
担当課による評価結果		B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している						

事業名		公民館における食に関するサークル活動						
実施時期		通年	実施対象		市民			
内容		<p>・各公民館で、料理・パン作り、お菓子作りなどの調理や食物アレルギーに関する情報交換など食育を行っているサークルに、活動しやすい環境を提供し、食育活動の支援を行う。</p>						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位	R4年		目標値の根拠	
		食に関するサークル数	社会教育関係団体登録数	サークル	目標	13		昨年度の実績数に基づき算出(燕9・吉田4・分水0)
					実績	13		
					達成率	100%		
評価のポイント		実施内容を具体的に記入						
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	今年度は吉田公民館が改修工事のため、他の公民館の調理室を利用できるよう調整を図る。					
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	どの公民館の調理室もスムーズに利用できるよう、調理環境のばらつきを減らす。					
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	利用者からの要望などをとりいれ、サークル活動を継続できるよう努めた。					
成果及び今後の課題		<p>活動拠点の公民館が使用できない状況でも、他の公民館等の調理室を利用することにより、食に関するサークル活動を継続できるよう支援を推進していきたい。</p> <p>各公民館ごとに調理室の利用ルールが異なるため、共通のガイドラインの作成が必要。</p> <p>食に関するサークル数を増やすために各公民館の調理室の活用をPR。</p>						
担当課による評価結果		A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

事業名	道の駅「国上」で背脂ラーメンを提供し燕市の食文化を市内外の人に伝える						
実施時期	随時	実施対象	道の駅国上の来訪者				
内容	背脂ラーメンは太麺に背脂がトッピングされ、伸びにくく冷めにくいということで、夜遅くまでものづくりに勤む職人の出前食として広く親しまれたという歴史がある。 グルメと楽しんでもらうだけでなく、燕市の金属加工産業の歴史や職人文化を食を通して伝えることも目的とする。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		背脂ラーメン提供数	累計食数	食	目標	90000食	・H30年度の食堂の食数の倍を算出 ・1日約330食を目標 ・実績：R4.7～12末までの数値
					実績	34637食	
					達成率	38.49%	
評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	背脂ラーメンが100年フードに認定されたということで、食の視点から、燕市の金属加工産業の歴史や職人文化を紹介した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	気軽に立ち寄れる道の駅の食堂で提供するため、老若男女問わず利用（提供）することが可能。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	道の駅のホームページの食堂のページにおいて、100年フードの記載とともに背脂ラーメンを紹介した。				
成果及び今後の課題		道の駅が7月からリニューアルオープンしたが、リニューアル後の食堂利用者がどれほどになるのか想定するのが難しかったことが、目標達成に到達しなかった原因として挙げられる。 また、燕市観光協会が背脂ラーメンを紹介するヒストリーブックや燕背脂ラーメンMAPを作成したが、マップへ道の駅も加えたり、道の駅のホームページに100年フードのロゴを掲載したりするなど、連携して100年フードのPRを進めていきたい。					
担当課による評価結果			B：食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	備蓄品の整備						
実施時期	10月	実施対象	市民				
内容	各小学校区に複数ある避難所のうち1か所に備蓄品を整備。 平成30年度から、アレルギー対応非常食「梅がゆ」を備蓄。 防災講座で教材として非常食を取り入れる等、賞味期限の迫った備蓄食を活用した事業を展開する。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		アレルギー対応非常食の備蓄数	今年度追加分を含めたアレルギー対応非常食の備蓄総数	食	目標	3,640	備蓄計画 平成30～令和4年度で合計3,640食 備蓄予定
					実績	3,600	
					達成率	99%	
評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギー者等に対応した非常食を備蓄するよう考慮。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	—				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギー者等に対応した非常食を備蓄するよう考慮。				
成果及び今後の課題		今後も備蓄計画に基づき備蓄していく。 (目標設定に誤りあり。備蓄計画の目標では令和5年度で合計3,640食備蓄予定)					
担当課による評価結果			B：食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	防災出前講座による災害時の食事について知識の普及						
実施時期	通年			実施対象	市民		
内容	地域や家庭・事業所等における防災について、実体験を含めた講座を実施。その中で、災害時の食事の在り方について正しい知識の普及を図る。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		防災出前講座 実施回数	実施回数	回	目標	15	令和3年度実施回数15回
					実績	19	
					達成率	127%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地域や家庭・事業所等における防災をテーマに、実体験を含めた災害時の食事の紹介や食事支援で注意すべき事項の周知を企画					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	まちづくり協議会・自治会・保健推進委員・老人会等、それぞれのコミュニティに応じて実施					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	衛生面を最重視し、生き残るための食事について周知した					
成果及び今後の課題		様々なコミュニティから防災出前講座の依頼があり、毎年度、多くの市民に周知できている。防災出前講座の活用の周知も含め、引き続き実施していく。					
担当課による評価結果			A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	子どもの居場所づくり支援事業						
実施時期	通年			実施対象	市内の子ども食堂		
内容	①市内の子ども食堂への「燕市子どもの居場所づくり支援事業助成金」支出 ②子ども食堂の開催等に関して市ホームページ、窓口でのチラシ設置等で対象者へ呼びかけ ③年2回各子ども食堂との意見交換会を実施						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		子ども食堂での 食事の提供回 数	市内各子ども食堂 での食事の提供回 数	回	目標	40回	現在燕市にある3つの子ども食堂の開催頻度。 ■つばめこども食堂・地域食堂 地域食堂: おおむね1か月に1回=12回 ママカフェ(ひとり親世帯対象): 2か月に1回=6回 ■白山町みんなの食堂 おおむね1か月に1回(1, 2月はお休み)=10回 ■おたがいさま食堂 1か月に1回=12回
					実績	44回	
					達成率	110%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	感染症流行下でも、引き続き子ども食堂が実施できるよう、これまでの助成金に加え、感染症対策経費として、各運営団体に50,000円の助成金増額を計画できた。(各団体に100,000円ずつ交付)					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	・各運営団体と意見交換会を行ったり、子ども食堂に関する連絡先を燕市ウェブサイトや社会福祉課窓口で公開したりするなど、運営団体の活動をサポートしている。 ・助成金に関する情報を燕市ウェブサイトで公開している。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	運営団体に助成金を交付することで、「配食」や「宅食」の形式で引き続き子ども食堂を実施することができた。					
成果及び今後の課題		・新たに子ども食堂(みなみくーちゃん食堂)が発足し、助成金交付団体が4団体となった。 ・生活困窮者自立支援の機能強化事業補助金(500,000円)を各団体に紹介し、3団体が交付決定となった。 ・各団体からは、市助成金以外の補助金(国など)は使用用途に制限があるため、使いにくいという声がある。今後、団体のニーズに合った補助金の紹介や、要望に沿った支援等が必要。					
担当課による評価結果			A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	フードドライブ						
実施時期	6月・8月・12月・2月(年4回開催)			実施対象	ひとり親世代・生活困窮世帯		
内容	家庭や企業で余っている食品を持ちこんでいただき、フードバンクへの寄付(フードドライブ)を通じて、食料支援を必要としている世帯などに配布する。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R4年	目標値の根拠
		寄付重量	寄付された「食品」 の重量	Kg	目標	1,500	■R3年度実績582kg (4月、5月分)
					実績	2,557	
					達成率	170%	
事業の 実施 状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	実施回数・窓口の増加を行い、支援が拡大するように企画した。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	広報・ウェブサイトによる支援の啓発を行った。 支援の受け入れ窓口の増設を行った。 平日以外の受け入れ窓口を行った。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	受け入れ窓口を増やしたことで、市民がフードドライブに参加する機会が増え、食の循環や環境、望ましい食週間の定着を意識した。食育推進の啓発につながった。				
成果及び今後の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立支援の機能強化事業補助金(500,000円)をフードバンク運営団体に紹介し、2団体が交付決定となった。</li> <li>・新規支援者が増加した。</li> <li>・新規支援者が増加した方で、継続的な支援に結びつかず、継続的な支援者を増やしていく対策が必要。</li> </ul>					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				